

平成 25 年 11 月 25 日 経営会議資料
教育委員会事務局 教育総務課、高校教育課

グローバル三重教育プラン（仮称）

— 三重から世界へ、その先へ —

（中間案）

Global "MI Education" Plan

平成 25 年 ● 月

三重県・三重県教育委員会

1 「グローバル三重教育プラン」の策定について

社会、経済等のあらゆる面においてグローバル化が急速に進展する中、国際的な舞台上で積極的に活躍・発信する力が求められるとともに、国内・県内にあっても、グローバルな視野（地球的視野）に立って自らの考えや意見を適切に伝え、日本人・三重県民としてのアイデンティティーを持ちながら、異なる文化・伝統に立脚する人々と共生できる能力や態度を身につけることが求められる。

このことを踏まえると、グローバル社会において特に求められる力としては、大きく、以下の3点に整理できる。

① 「主体性」 (*Independence*)

超高齢社会をはじめ、我が国が「課題先進国」としてさまざまな課題に直面する中、私たち一人ひとりが、高い志を持ち、さまざまな課題に対して自ら考え挑戦し、立ちはだかる壁を乗り越え、未来を切り拓いていく力。

② 「^{きょういく}共育力」 (*Co-growth*)

私たち一人ひとりが、郷土への愛着と誇りを持ちながら、それぞれのアイデンティティーを確立・確認し、それを心の土壌として、異なる文化・伝統に立脚する人々とも協働しながら共に成長し、未来を創造していく力。

③ 「語学力」 (*English*)

グローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存も含め、持続可能な発展に向けた相互理解や国際協力等が求められる中、語学力、とりわけ国際的共通語となっている「英語」によりコミュニケーションを図り行動する力。

「グローバル三重教育プランー三重から世界へ、その先へー」は、三重県として、グローバル社会において求められる上記の3つの力を重視するとともに、三重県民としてこれらの力をバランスよく身につけ、生涯にわたりこれらの力を高めていくための具体的な方向性を示し、取組を進めることにより、三重県が国内外で信頼され「選ばれる地域」となることを目指すものである。

2 三重県における取組の現状と課題

(1) 主として「主体性」及び「共育力」育成について

- 子どもたちに自立する力と共に生きる力を育成することを目指して、「みえの学力向上県民運動」（平成24年度～平成27年度）がスタートしているが、グローバル社会で求められる力を育成する観点からの取組を具体化していく必要がある。特に「将来の夢や目標をもち、失敗をおそれず挑戦する子ども」を育てていくため、チャレンジ精神や「志」の育成を図るとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な力の育成に力を入れていく必要がある。
- 目的意識の向上や郷土に対する誇り・愛情等の涵養をめざし、体系的なキャリア教育や、郷土教育・道徳教育のための教材づくり等を進めている。今後は、従来の取組に加え、課題解決力や発信力を含むコミュニケーション力の育成をより意識した取組を進めていく必要があるとともに、これを基礎とした異文化理解の促進、さらには、将来を担う若者同士の絆と向上心を高めていく必要がある。
- 海外での事業展開をめざす次世代経営者にとって、グローバルビジネスに必要なスキル・知識等が求められており、より実践的に学ぶ機会が必要である。また、国際競争を勝ち抜くために必要となる新たな技術や専門的知識等について、日本を代表する講師陣による講座などを活用しながら、グローバル化に対応できる人材の育成を推進する必要がある。
- 農林水産物等の輸出入の拡大や諸外国との人材交流の進展など、グローバル化に対応できる農林水産事業者の育成に取り組むとともに、農林水産業への就労希望者等に対して、海外展開も視野に入れた知識や技能の習得を進めていく必要がある。
- 多文化共生社会の実現や国際貢献の推進者として、多様な主体を対象に国際理解研修や啓発事業を実施している。今後は、さらに異文化の理解、多文化共生を促進するため、他国の文化等の情報発信や、多様な生活スタイルや考え方を体験的に学習できる場づくりに取り組む必要がある。

(2) 主として「語学力」育成について

- 小学校では外国語活動が実施されているが、指導内容や指導方法が十分に確立されているわけではない。早い段階からの外国語教育の充実が喫緊の課題となる中、小学校における外国語活動の指導方策の充実に向けた研究等を進める必要がある。
- 英語学習で養うべき「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの領域のうち、中学校では、「聞くこと」「話すこと」の活動が以前より活発に行われている傾向がある一方、高等学校では、「読むこと」「書くこと」が中心の学習となっている傾向がある。読んだことをもとに書く、聞いたことをもとに話すなど、4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に学習するとともに、小学校・中学校・高等学校の系統性も意識した英語学習の方策の構築や、教員の英語運用力・指導の専門性の向上を図る必要がある。
- 中学校においては、英語の必要性を感じているものの、学年が進むにつれて英語が好きな生徒が減少する傾向が見られることから、ALTやICT機器などを積極的に活用し、日常的に英語にふれる機会を増やすなど、授業時間外も含めた英語の使用環境を創出・拡大する必要がある。
特に高等学校においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る中で、職業系専門学科も含めて、英語力向上に向けた取組を進める必要がある。

3 三重県における取組の方向性と特徴

本プランは、計画期間を3年（平成26年度から平成28年度）とし、グローバル社会で求められる3つの力に対応した取組を重点的に展開していく。

特に、子どもたちが将来自立した社会人となるための基盤づくりとなる義務教育及び後期中等教育（小学校～高等学校）における取組を重視しつつ、生涯を通じた成長・発達段階に留意して取組を進めるとともに、学校と地域住民及び企業等との連携協力、異年齢交流を通じた人間的成長の促進、発信力の育成等を意識し、三重と世界、そして未来をつなぐ人づくりを進めていく。

（1）「主体性」に係る取組（自ら考え判断し主体的に行動する力）

上記の現状と課題を踏まえ、以下を「主体性」についての取組の柱として施策を展開していく。

- ① チャレンジ精神・目的意識の向上
- ② 「志」の育成（特に、グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献）
- ③ 課題解決力の向上
- ④ 専門的知識・技術の習得

（2）「共育力」に係る取組（共に成長しながら新しい社会を創造する力）

上記の現状と課題を踏まえ、以下を「共育力」についての取組の柱として施策を展開していく。

- ① 発信型の郷土教育
- ② 異文化理解・多文化共生の促進
- ③ 将来を担う若者同士のつながり
- ④ コミュニケーション・スキルの向上

（3）「語学力」に係る取組（外国語で積極的にコミュニケーションを図る力）

上記の現状と課題を踏まえ、以下を「語学力」についての取組の柱として施策を展開していく。

- ① 英語指導モデルの構築（小学校からの英語教育の充実）
- ② 教員等の英語運用力・専門性の向上
- ③ 英語使用環境の創出・拡大
- ④ 英語人口の裾野拡大

なお、三重県における求められる英語力を有する生徒（中学生・高校生）及び教職員の割合は以下の通りである。本プランの実施を通じて、これらの割合を全国トップレベルにしていくことを目指していく。

【求められる英語力を有する生徒及び教員の割合】（平成24年度）

	生徒 〔(中学生) 卒業時に英検3級程度以上 (高校生) 卒業時に英検(準)2級程度以上〕		教員 〔英検準1級程度以上〕	
	中学校	高校	中学校	高校
三重県	26.1%	29.8%	29.3%	59.2%
全国平均	31.2%	31.0%	27.7%	52.3%

【平成24年度公立高等学校及び中学校等における『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る調査（文部科学省）より】

4 具体的施策^(注)

それぞれの取組の柱において重点的に取り組む施策は、以下のとおりである。

(1) 「主体性」に係る取組（自ら考え判断し主体的に行動する力）

【取組の柱①】 チャレンジ精神・目的意識の伸長

平成24年度からスタートしている「みえの学力向上県民運動」の取組を通じ、主体的に学び行動する意欲を県民総参加で子どもたちに育てていくとともに、「ようこそ先輩」「しごと密着体験」等のキャリア教育の実践を通じて、子どもたちの目的意識等の醸成に引き続き取り組むほか、新たに以下の施策を進める。

⊕ 専門高校生による小中学生体験チャレンジ講座【対象：小中高】

職業系専門学科の高校生が小中学生向けの体験メニューを提案し、当該メニューを通じた高校生と小中学生等との異年齢交流・体験活動などを通じて、チャレンジ精神を育むとともに、子どもたちの自信や目的意識を育む。

⊕ グローバル経営人材育成事業【対象：社】

アジアダイナミズム、世界が構造転換期にあることを踏まえ、多くの経営課題に対しどう立ち向かい、構造改革や改善を含めてどう戦略経営を実践していくのか、時代を「変えていく」という当事者としての気概を持つ経営者や次世代経営者を主な対象に、日本を代表する講師陣の至近距離による議論を通じて、必要な時代認識力や世界潮流を読み解く力を育成する。

また、塾生が相互に交流し、様々な業種の経営者とのネットワークによる新たな展開にもつなげていく。

【取組の柱②】 「志」の育成（グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献）

持続可能な社会づくりに貢献する意識と行動力が強く求められるところ、そのような「志」の育成に向けて、新たに以下の施策を進める。

⊕ 小中学生のためのグローバル講座【対象：小中】

社会課題についての講話や問題提起を踏まえ、子どもたちが地域の大人も交えて討論し、解決策を模索する等の活動を通じて、子どもたちがグローバル社会を実感し、主体的に行動できる力を育成する。

^{注)} 本プランでは、個別の施策（⊕）を、関わりの深い取組の柱の下に位置づけているが、施策内容によっては、複数の取組の柱にも関わるものであることに留意して、施策を進めていく。また、各施策の【対象】欄における「小」「中」「高」「大」「社」とは、それぞれ「小学生」「中学生」「高校生」「大学生」「社会人」を指すものとする。

⑤ 「中学生からの提案」コンテスト【対象：中】

知事が投げかけるいじめ等の課題解決に向けて、中学生（各校生徒会単位）が実践したいと考える提案を広く募集し、優秀な取組に支援をしていくことを通じ、社会課題に取り組む力と、子どもたちが自分たちの手で解決していく土壌作りを行う。

⑥ スーパーグローバルハイスクール（SGH）【対象：高】

「文系からイノベーション」をキーワードに、社会課題についての討議や課題設定型学習、海外短期派遣等を通じて、人間力や英語力を伸ばし、グローバル化社会で主体的に活躍できる人づくりを進める。

【取組の柱③】課題解決力の向上

各小・中・高等学校において課題解決力の育成を意識した授業展開等を進めるほか、新たに以下の施策を進める。

⑦ ICTを活用した創造的な学びの実践【対象：高】

タブレットPCの活用による協同学習や双方向型の授業等、子どもたちの課題解決力やコミュニケーション・スキルの向上につながる創造的な学びの実践を通じ、高等学校におけるICTを活用した新たな学びの手法について研究を進める。

【取組の柱④】専門的知識・技術の習得

高等学校においては、学校と企業の連携による日本版デュアルシステム等を引き続き推進するとともに、社会人については、海外研修などを通じて、農林漁業をはじめとする職業人の育成に引き続き取り組むことのほか、以下の施策を進める。

⑧ みえスーパーサイエンスハイスクール（Mie SSH）【対象：高】

大学等と連携した講習会やセミナー等の実施により課題研究の推進等の先進的な理数教育を推進するとともに、小中高の理数教育モデルを構築し、社会に貢献する志を持つ未来のサイエンスリーダーを育成する。

⑨ みえスーパープロフェッショナルハイスクール（Mie SPH）【対象：高】

職業系専門学科の高等学校において専門性や技術力の向上、高度な資格取得、創造的なものづくり等の実践研究に取り組み、また、学科間連携の下で職業教育を充実していくことを通じ、確かな知識・技術を身につけるプロフェッショナルを育成する。

⑩ 農林水産業現場での大学生等の就労体験の促進【対象：大】

輸出など海外展開の取組を進めている県内の先駆的な農林水産事業者において、

インターンシップ等の長期就労体験システムを導入することにより、大学生等における農林水産業への就労に向けた意欲の向上と知識・技能の習得を図るとともに、海外に目を向け、積極的にチャレンジしていける人材の育成につなげる。

④ 戦略産業雇用創造プロジェクト【対象：社】

国際競争を勝ち抜くために必要となる新たな技術や専門的知識等について、国内大学等との連携による講座やSSCC（サウスシアトルコミュニティカレッジ）との連携を通じて、グローバルな視点を併せ持った人材の育成を推進する。

(2) 「共育力」に係る取組（共に成長しながら新しい社会を創造する力）

【取組の柱①】発信型の郷土教育（日本人・三重県民としてのアイデンティティー）

郷土教育と道德教育を一体化した教材（「三重県心のノート」）等の活用を進めるとともに、日本人・三重県民としての自覚と誇りをもって、世界に発信できる力の育成を目指し、新たに以下の施策を進める。

④ 「郷土三重を英語で発信！ーワン・ペーパー・コンテスト」【対象：中】

教材「三重の文化」「三重県心のノート」等を題材にした英語（1枚紙）によるコンテストを開催することを通じて、中学生が郷土三重についての理解を深め、積極的に対外的に発信できる力を育成する。

④ 高校生英語観光ガイド【対象：高】

三重県内向けの外国人ツアーにおいて、専属ガイドの補佐役として英語ガイドを実践することを通じ、事前学習も含めて、高校生が郷土三重についての理解を深め、英語により郷土三重を発信できる実践力を育成する。

【取組の柱②】異文化理解・多文化共生の促進

外国人児童生徒の在籍数が多いという本県の特長を生かし、NPO等の関係機関との連携による多文化共生の啓発や、各学校における国際理解・多文化共生教育を一層推進するとともに、引き続き、三重県内の外国人留学生等への奨学金支給を行う。

これらの取組に加え、新たに以下の施策を推進する。

④ 異国文化発信（インターネット／出張講座／出前ワークショップ）【対象：小中高大】

ホームページを通じて他国文化等に関する情報を日本人向けに発信するとともに、メール配信や出前講座、出前ワークショップにより異国文化を積極的に発信し、学校の授業等における活用を進める。

④ 外国人の多い職場との交流の促進【対象：高】

外国人の多い職場（企業）へのインターンシップや外国人技術者の学校への派遣を促進すること等を通じ、企業のグローバル展開を肌で感じる機会を与え、「働く」こととの関わりにおける多文化共生の重要性についての理解を深める。

【取組の柱③】将来を担う若者同士のつながり

各学校において異年齢交流を進めるほか、新たに以下の施策を推進する。

④ みえ未来人(みらいびと)育成塾【対象：高大】

高校生及び大学生を対象に、広くテーマを設定し、企業人や社会起業家等の講義、

留学生を交えたディスカッションなどを行う。例えば、マイケル・サンデル教授の「白熱教室」などを参考として、社会問題や地域課題、哲学等をテーマとした講座を実施し、将来の三重を支える「志」を育成するとともに、学校の枠を超えた若者のネットワークを構築する。

【取組の柱④】コミュニケーション・スキルの向上

各学校において、各教科の学習や学級経営において子どもたち同士のコミュニケーション力の育成を意識した授業展開等を進めるほか、ICTの積極的な活用も含め、子どもたちのコミュニケーション・スキル向上を目指した取組を進めていく。

あわせて、以下の施策を推進する。

④ ネットコンテンツの授業活用【対象：中高】

英語によるプレゼンテーションなど、インターネット上のコンテンツを学校における授業等で活用実践することを支援し、実践的な英語力の向上につなげる。

(3) 「語学力」に係る取組（外国語で積極的にコミュニケーションを図る力）

【取組の柱①】英語指導モデルの構築（小学校からの英語教育の充実）

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域の技能を子どもたちがバランス良く身につけられる英語教育を系統的に実施するため、以下の施策を推進する。

④ 小中学校英語教育モデルの構築【対象：小中】

フォニックス（Phonics）の活用も含め、小学校における発達段階に応じたカリキュラムの研究開発に着手し、中学校における英語教育との連続性も意識した小中学校における英語教育のモデルを構築するとともに、小学校や中学校における教材の研究開発を進める。

※ フォニックス（Phonics）とは、英語の発音と綴りの関係を表すルールを学ぶ学習法のこと、もともとは英語圏の子どもたちに読み書きを教えるために開発されたものである。

④ 高等学校英語教育モデルの構築【対象：高】

CAN-DOリスト（各学年等の目標を設定）の活用も含め、高等学校における効果的な英語指導法・教材の研究開発を進め、小・中学校との接続も意識した高等学校における英語教育のモデルを構築するとともに（みえセルハイ：Mie SELHi）、職業系専門学科も含め、高等学校における基礎英語力向上のための指導法や教材開発を進める。

※ CAN-DOリストとは、学習到達目標を「～することができる」という能力記述文で示したもので、生徒の英語力を把握し、授業の改善に活用するものである。

④ ネットコンテンツの授業活用【対象：中高】（再掲）

英語によるプレゼンテーションなど、インターネット上のコンテンツを学校における授業等で活用実践することを支援し、実践的な英語力の向上につなげる。

【取組の柱②】教員等の英語運用力・専門性の向上

中学校及び高等学校の英語科教員採用における英語運用力の加点など、教員採用における工夫改善を進めるほか、新たに以下の施策を推進する。

④ 小学校における英語教育指導体制の充実【対象：小】

全小学校において英語教育（外国語活動）の実施・推進を担う英語教育コーディネーターを指名するとともに、英語教育コーディネーター対象の集中研修を実施し、

小学校における英語教育指導体制を確立する。

④ 中学校・高等学校における英語教育指導体制の充実【対象：中高】

中学校及び高等学校の英語科教員について、一部はALTとの合同により、英語指導力及び英語運用力向上のための悉皆研修を集中的に実施することで、ALTの効果的な活用も含めた実践的な英語教育を実現する。

【取組の柱③】英語使用環境の創出・拡大

各学校における英語キャンプの取組やインターネットを通じた海外との交流を進めるとともに、以下の施策を推進する。

④ 英語キャンプの通年型実施【対象：小中高】

高校生を対象に年1回実施してきた「英語キャンプ」を通年型により実施するとともに、小中学生の参加や、保護者・留学生等の一部参加も得ながら実施することにより、実践的な英語使用環境の創出と異年齢交流による人間的成長を促進する。

キャンプでは、レゴ社が開発したブロックを活用し、発達段階に応じた英語活動を取り入れ、コミュニケーション能力、創造力やチームワーク力などを育成する。

④ 「英語サロン」の開設支援【対象：小中高】

学校内の空き教室等において、ALTや地域人材等の協力により「英語サロン」を開設し、「英語サロン」におけるインターネット交流の推進も図ることで、日常的な英語使用環境を創出するとともに、異文化理解の実践教育の場とする。

④ 外国人住民・留学生等と三重の子どもたちとの教育交流【対象：小中高大社】

大学と協力し、県内の高等学校等が実施するサマーキャンプへ留学生等を派遣するほか、協力いただく外国人住民及び留学生等を募集し、「英語サロン」の場などを通じて三重の子どもたちと交流することで、子どもたちの英語コミュニケーション力の向上を図るとともに、外国人住民等による地域社会への参画を促進する。

④ 高校生等の留学及び留学受入の促進【対象：高大】

県内の高校生の海外留学について、長期とともに短期の海外留学資金を一部支援するとともに、海外からの留学生（高校生・大学生）の受入を促進することを通して、県内外における実践的な英語の使用機会を創出する。

【取組の柱④】英語人口の裾野拡大

英語人口の裾野拡大に向けて、各学校においては以下の施策を新たに推進する。

④ 英語インセンティブ向上事業【対象：小中高】

県内で行われる国際イベント（スポーツ大会を含む）等における外国人選手との交流や、ALTや留学生等との料理教室の実施など、子どもたちが英語を「もっと話せるようになりたい」と思える機会を創出する。

④ 高校生の英語力養成【対象：高】

「日常英会話講座（英検準2級合格を目指す）」「標準英会話講座（英検2級合格を目指す）」を実施することで、県内の高校生に「求められる英語力」を確実に身につけさせる。

「グローバル三重教育プラン」(仮称)(中間案)に関する構成事業一覧表

別紙

発達段階 (就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人)	取組の方向性	取組(事業)名	新規・継続	事業期間	具体的な取組(事業)内容	部局名
1 大学	主体性(①チャレンジ精神・目的意識の慎重、②「志」の育成(グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献)、③課題解決力の向上、④専門的知識・技術の習得)	大学生等を対象とした農林水産業現場での就労体験を促進	継続	H26～	グローバル化が進みつつある県内の先駆的な農林水産事業者において、若年層の担い手を確保するためのツールとしてのインターシップ等農林水産業における長期就労体験システムの導入を促進。→新たな農業の担い手発掘事業(既存事業)のなかで、大学生等の就労体験にかかるマッチング活動を実施。	農林水産部
2 社会人	主体性(①チャレンジ精神・目的意識の慎重、②「志」の育成(グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献)、③課題解決力の向上、④専門的知識・技術の習得)	就農準備段階での海外派遣農業研修への支援	継続	H24～	・国の青年就農給付金制度(準備型)における県が指定する研修機関として、国際農業者交流協会を指定し、県内での就農を前提とした欧米での海外派遣農業研修(約1年半)を支援(就農時45歳未満を対象) → 制度変更により、国際農業者交流協会を通じた海外研修者への給付金は一括して国の外郭団体から給付されることになり、県の予算計上はなしとなった。 ・海外派遣農業研修修了者によるネットワークづくり(三重県国際農業者交流協会との連携による)	農林水産部
3 社会人	グローバル経営人材の育成 主体性(①チャレンジ精神・目的意識の伸長、②「志」の育成(グローバルマインド))	グローバル経営人材育成事業費	新規	H26～	アジアダイナミズム、世界が構造転換期にあることを踏まえ、多くの経営課題に対しどう立ち向かい、構造改革や改善を含めてどう戦略経営を実践していくのか、時代を「変えていく」という当事者としての気概を持つ経営者や次世代経営者を主な対象に、日本を代表する講師陣の至近距離による議論を通じて、必要な時代認識力や世界潮流を読み解く力を育成します。 また、塾生が相互に交流し、様々な業種の経営者とのネットワークによる新たな展開にもつなげていきます。	雇用経済部
4 社会人	主体性(①「志」の育成(グローバルマインド)、④専門的知識・技術の習得(グローバルな視点からの営業能力強化等))	戦略産業雇用創造プロジェクト	新規	H25 9 補～	国際競争を勝ち抜くために必要となる新たな技術や専門的知識等について、国内大学等との連携による講座やSSCC(サウスシアトルコミュニティカレッジ)との連携を通じて、グローバルな視点を併せ持った人材の育成を推進します。	雇用経済部
5 高等学校	主体性(①チャレンジ精神・目的意識の伸長)	専門高校生による小中学生体験チャレンジ講座	新規	H26	職業系専門学科(専門高校)の生徒が提案する体験メニューに応募した小中学生等と、専門高校生と一緒に体験活動などを実施(県内高等学校10校程度)	教育委員会事務局
6 高等学校	主体性(①チャレンジ精神・目的意識の伸長)	「ようこそ先輩」しごと密着体験等の実践	継続	H24	NPO法人とも連携した就業体験等のプログラムの実施	教育委員会事務局
7 高等学校	主体性(①チャレンジ精神・目的意識の伸長)	県民運動等による啓発・具体化	継続	H24	みえの学力向上県民運動を基軸にした啓発の充実 各教科等において、目的意識向上につながる授業展開を進めるための指導法の開発・実践 実社会での出来事や問題と関連付け、実際に知識・技能を活用できるように配慮した授業展開 子どもたちの自主活動への支援(学級活動・ホームルーム活動や児童会・生徒会活動等の活発化)	教育委員会事務局

「グローバル三重教育プラン」(仮称)(中間案)に関する構成事業一覧表

別紙

	発達段階 (就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人)	取組の方向性	取組(事業)名	新規・継続	事業期間	具体的な取組(事業)内容	部局名
8	高等学校	主体性②「志」の育成(グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献)	スーパーグローバルハイスクール	新規	H26	「文系からイノベーション」をキーワードにモデル校を指定 *進学・リベラルアーツ・英語教育・海外短期派遣・大学/企業との連携	教育委員会事務局
9	高等学校	主体性②「志」の育成(グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献)	みえグローバル未来塾	新規	H26	三重大学等との連携によるグローバル連続講座→ 同年代の子どもたちが学校の枠を超えて参加・交流・学習することで、将来のグローバルリーダーとしての「志」の育成とヨコのつながりを図る。	教育委員会事務局
10	小中学校	主体性②「志」の育成(グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献)	「小中学生のためのグローバル講座」	新規	H26	グローバル社会を実感し、行動できることを目指して、小中学生が職業人からの話を聞いて、グローバル社会における課題について地域の大人も交えて討論したり、提言したりする活動の実施(5中学校区程度)	教育委員会事務局
11	中学校	主体性②「志」の育成(グローバルマインド、持続可能な社会づくりへの貢献)	小中学生のための発信力育成事業 「中学生による提言・発信コンテスト事業」	新規	H26	グローバルマインドの育成のため、中学生対象に2部門(「中学生の提言(仮称)部門」と「英語による郷土三重発信(仮称)部門」)でコンテストを実施	教育委員会事務局
12	県内高等教育機関(大学・高専)	主体性③課題解決能力の向上 共育力③将来を担う若者同士のつながり、④コミュニケーション・スキルの向上)	高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり推進事業(学生×地域カフェ、ベストプラクティスコンテスト及び大学・地域連携シンポジウム)	継続	H24~	地域の課題解決に向けて、県内高等教育機関と地域との一層の連携や教職員・学生の地域活動への積極的な参画を促進するために、以下の取組を行う。 ・具体的な地域課題をテーマに、地域と高等教育機関の学生とのマッチングを行い、モデル事業を実施する。 ・学生と地域と一緒に地域課題に取り組んでいる事例を広く県民の皆さんに周知するとともに、地域の将来を担う人材の育成と他地域での取組に活かすことを目的に、優秀な活動を表彰及び発表する。また、活動する学生や連携に取り組む地域の裾野の拡大を目的に、大学関係者、地域の皆さん、学生を対象にシンポジウムを開催する。	戦略企画部
13	高等学校	主体性③課題解決能力の向上)	ICTを活用した創造的な学びの実践	新規	H26	タブレットPCの活用による協同学習や双方向型の授業等、創造的な学びの実践を通じ、高等学校におけるICTを活用した新たな学びの手法についての実践研究を行う(ICTを活用した指導方法や校務支援体制の研究)。	教育委員会事務局
14	高等学校	主体性③課題解決能力の向上)	課題解決力育成を意識した授業展開	継続	H25	各教科等において、課題解決力の向上を意識した授業展開を進めるための指導法の開発・実践(習熟度別学習や協同学習の工夫の併用や、プレゼンテーションやディベートの授業展開の工夫も実施[探求型・共同型学習]) 各教科等において、実社会での出来事や問題と関連付け、実際に知識・技能を活用できるように配慮した授業展開	教育委員会事務局
15	小中高	主体性③教職員の課題解決能力向上)	教職員研修事業	継続	H25~	子どもたちの課題解決力育成のための研修講座を実施	教育委員会事務局
16	高等学校	主体性④専門的知識・技術の習得)	理数教育の充実(スーパーサイエンスハイスクール(SSH)<国>やMie SSH<三重県>の指定)	継続	H25	先進的な科学技術、理科・数学教育をととして、生徒の科学的能力及び技能並びに科学的思考力、判断力及び表現力を培い、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等を育成 理数教育モデルの構築(小中高の接続も意識)	教育委員会事務局

「グローバル三重教育プラン」(仮称)(中間案)に関する構成事業一覧表

別紙

	発達段階 (就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人)	取組の方向性	取組(事業)名	新規・継続	事業期間	具体的な取組(事業)内容	部局名
17	高等学校	主体性(④専門的知識・技術の習得)	職業教育の充実	継続	H25	グローバル社会に生きる専門職業人としての知識・技術を習得させるとともに、大学や産業界等との連携体制や教育モデルを構築	教育委員会事務局
18	高等学校	主体性(④専門的知識・技術の習得)	デュアルシステムの実施	継続	H25	授業と実習を組み合わせた取組を教育課程に位置付けて取り組む高校を支援	教育委員会事務局
19	高等学校	共育力(①発信型の郷土教育)	高校生英語観光ガイド	新規	H26	高校生による英語ボランティアガイドの実践 * 旅行会社と提携し、三重県内向けの外国人ツアーにおいて、専属ガイドの補佐役として、英語ガイドを実践(インターンシップの一環としての実践も考えられる)	教育委員会事務局
20	中学校	共育力(①発信型の郷土教育)【再掲】	小中学生のための発信力育成事業 「中学生による提言・発信コンテスト事業」	新規	H26	グローバルマインドの育成のため、中学生対象に2部門(「中学生の提言(仮称)部門」と「英語による郷土三重発信(仮称)部門」)でコンテストを実施	教育委員会事務局
21	就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人 (主な対象者: 学校・NPO支援団体・企業等の指導者)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	次代を切り拓くグローバル人材育成支援事業 (文化の違い発信)	新規	H26~	現在、外国人住民が日本(三重県)で生活していくうえで必要となる基本的な行政や生活情報を、多言語ホームページ(ポルトガル語・スペイン語・英語・日本語)で提供しています。 このホームページの一部を活用して、他国の文化等に関する情報を日本人向けに発信します。	環境生活部
22	小学校・中学校・高等学校 (主な対象者: 小学生~高校生)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	次代を切り拓くグローバル人材育成支援事業 (文化の違い発信)	新規	H26~	平成25年度から、多文化共生課の国際交流員が、出身地の文化などについて紹介する「ニュース・レター」を、県庁内メールを使って試験的に発信しています。 事務作業上、現在は月に一度の試みですが、文化の違いの理解につながっています。 この異国文化発信を、国数を増やし、体系的に整理し、頻度を増やすことで、また、子どもたちにもわかりやすく興味を引くテーマを選ぶことで、学校教育等でも活用していただけるように内容を充実させるとともに、希望する学校等の機関等に、情報を届ける事業とします。	環境生活部
23	就学前・小学校・中学校 (主な対象者: 幼児・小学生・中学生)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	次代を切り拓くグローバル人材育成支援事業 (多文化交流・ワークショップ等への派遣)	新規	H26~	現在、多文化共生課の国際交流員が、地域や学校に出向いて、県民・児童生徒等との交流や多文化共生事業を実施しています。具体的には、県立図書館等での「お話し会」、学校等での「もっと世界を知ろう事業」などがあります。今後は、学校教育等で活用していただけるよう、内容・分野・時間等の整理を行い、いくつかのカリキュラムを作成し、外国人住民や留学生などの協力を得て、出前講座として実施します。	環境生活部
24	中学校・高等学校・大学 (主な対象者: 中学生・高校生・大学生)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	次代を切り拓くグローバル人材育成支援事業 (多文化交流・ワークショップ等への派遣)	新規	H26~	異文化に対する理解を深めるには、意見交換を行うワークショップが効果的であると考えられることから、平成25年12月に開催する多文化共生啓発事業では、試験的にワークショップ形式で実施することとしています。 この成果を生かし、協力者に対してファシリテートやコーディネートに関する研修を実施し、また、学校の授業に組み込んでいただけるよう複数のカリキュラムを作成し、学校等への出前ワークショップを実施します。	環境生活部

「グローバル三重教育プラン」(仮称)(中間案)に関する構成事業一覧表

別紙

	発達段階 (就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人)	取組の方向性	取組(事業)名	新規・継続	事業期間	具体的な取組(事業)内容	部局名
25	小学校・中学校・高等学校・大学 (主な対象者:小学生～大学生)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	次代を切り拓くグローバル人材育成支援事業(サマーキャンプへの派遣)	新規	H26～	子どもたちが外国人と生活する中で、多様な生活スタイルや考え方があることを体験的に学習する場として、学校等が実施するサマーキャンプへ留学生等を派遣します。 留学生側にとっても、日本を知るよい機会になると考えます。留学生側にとっても、日本を知るよい機会になると考えます。 留学生を参加させる大学に協力を求め、大学側、受け入れる学校側の双方にとってよりよい効果が生まれるよう、複数のカリキュラムを作成します。	環境生活部
26	小学校・中学校・高等学校・大学 (主な対象者:外国人住民・留学生等)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	次代を切り拓くグローバル人材育成支援事業(外国人材の研修・登録)	新規	H26～	協力していただく外国人住民及び留学生等を募集し、研修等により、人材育成を図ります。日本人との交流を通して、互いに刺激しあう中で、互いの創造力を育むことをめざします。またこのことにより、外国人住民・留学生等が地域社会に参加・参画する契機につながると考えます。	環境生活部
27	就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人 (主な対象者:全般、NPO関係者・教職員・大学生など)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	多文化共生啓発・国際理解推進事業	継続	H25～	(多文化共生啓発事業)NPO、経済団体、行政等のさまざまな主体が企画段階から参画して、多文化共生にかかる啓発事業を実施します。 (国際理解教育研修事業)多文化共生社会や国際貢献の推進者としての活動が期待される国際交流・市民ボランティア関係者、教職員、大学生、自治体職員等を対象に国際理解研修を実施することにより、地域における国際理解を進めます。	環境生活部
28	大学 (主な対象者:留学生)	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	留学生支援事業	継続	H25～	海外の大学等に在学する三重県出身者等及び三重県内の大学等に在学する私費外国人留学生、県内の医師・看護師養成機関で学ぶ外国人学生に対して、奨学金を支給します。	環境生活部
29	社会人	共育力(②異文化理解・多文化共生、④コミュニケーション・スキルの向上)	グローバル化に対応出来る農林漁業経営者の育成	継続	H25～	・アドバイザー派遣や研修会の開催及び県農業大学校での新たなカリキュラム導入等農林水産物・食品輸出拡大に向けての人材育成プログラムの構築 → H25年度から新設したカリキュラム「農産物マーケティング」等のなかで実施。 ・外国人技能実習生受入制度等を活用した外国人研修生の積極的な受入促進	農林水産部
30	高等学校	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	外国人の多い職場(企業)との交流の促進	新規	H26	外国人の多い職場へのインターンシップや、外国人技術者の学校への派遣等を促進	教育委員会事務局
31	高等学校	共育力(②異文化理解・多文化共生の促進)	外国人生徒在籍校を中心とした国際理解・多文化共生教育の推進	継続	H24	異文化理解の促進	教育委員会事務局
32	小中高	共育力(④教職員のコミュニケーション・スキル向上)	教職員研修事業	継続	H25～	子どもたちや教職員のソーシャルスキル・コミュニケーション力・チーム力育成、向上のための研修講座を実施	教育委員会事務局
33	高等学校	語学力(①英語指導モデルの構築)	高校英語教育モデルの構築	継続	H25	CAN-DOリスト(各学年等の目標を設定)を活用した指導法の研究・開発 小中高別の共通指導事項/効果的な指導方法(指導体制含む)の提示	教育委員会事務局

「グローバル三重教育プラン」（仮称）（中間案）に関する構成事業一覧表

別紙

発達段階 (就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人)	取組の方向性	取組(事業)名	新規・継続	事業期間	具体的な取組(事業)内容	部局名
34 高等学校	語学力(①英語指導モデルの構築)	高校における英語基礎力向上	継続	H25	高校における義務教育段階を含む英語力向上の指導法・教材やカリキュラムの研究・開発 普通科、職業系専門学科別の指導法等の研究・開発を進める中で、職業系専門学科における高校生の英語力向上の推進	教育委員会事務局
35 小(中)学校	語学力(①英語指導モデルの構築)	小学校における英語教育の充実(その1)～英語指導法研究	新規	H26	・ 小学校における発達段階に応じたカリキュラムの研究・開発(フォニックス(Phonics)等の活用も含む) * 英語教育のモデル校(実験校)を指定し、人材、予算等を集中的に投入(県内の小学校6校程度(うち半数程度は、教育課程特例校を指定)とするが、1地域は中学校校区で指定し、中学校1校も指定) → 小学校における「聞く」「話す」をメインとした学習をベースに、中学校では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域をバランスよく指導(指定中学校校区では、中学校との共通理解、連携も実践研究) * ALT各校1名を配置(常勤) * モデル校では、1～6年生の毎週各1時間を「ENGLISH TIME」とし、「聞く」「話す」を中心とした会話の学習を実施するとともに、各教科等においてもALTを積極的に活用 * 小学校免許と中高の英語科免許の両方の所有者を配置 * 「英語サロン」(後述)の効果的な活用方策についても実践研究 …「ENGLISH ROOM」の設置(ICT機器、フォニックス等の各種教材を常備し、「ENGLISH TIME」の学習を実施。ALTが常駐し、昼休みや放課後も英語で児童と交流。)	教育委員会事務局
36 中学校、高校	語学力(①英語指導モデルの構築)	ネットコンテンツの授業活用(グローバル三重教育プラン)	新規	H26～	英語による講演・プレゼンなどネット上のコンテンツ(例:TED)を中高生向け授業等で活用実践できるよう、活用のポイントも県が提示＝ネットDE研修	教育委員会事務局
37 小学校	語学力(②教員等の英語運用力・専門性の向上)	小学校における英語教育の充実(グローバル三重教育プラン)	新規	H26～	小学校外国語活動に関するネットDE研修の充実 対象者:英語教育コーディネーター(各小学校で外国語活動を牽引する担当者)の各校1名	教育委員会事務局
38 小学校	語学力(②教員等の英語運用力・専門性の向上)	小学校における英語教育の充実(グローバル三重教育プラン)	新規	H27～	平成26年開発する小学校での英語指導法も取り入れるほか、英語教育に係る校内研修マネジメント等も含めて実施	教育委員会事務局
39 中学校、高校	語学力(②教員等の英語運用力・専門性の向上)	英語力向上及び英語指導力向上集中研修(グローバル三重教育プラン)	新規	H26～	教員の英語指導力を高める研修を実施 対象者:平成20年度～平成26年度採用英語教員(平成27年度以降は初任者研修時に実施) 内容:英語指導力を高める研修＝3日間 ネットDE研修＝2本(英語指導力向上(中・高各1本)、英語力向上(1本)を作成し、受講者は校種に合わせて、そのうちの2本を視聴する。)	教育委員会事務局

「グローバル三重教育プラン」(仮称)(中間案)に関する構成事業一覧表

別紙

発達段階 (就学前・小学校・中学校・高等学校・大学・社会人)	取組の方向性	取組(事業)名	新規・継続	事業期間	具体的な取組(事業)内容	部局名
40	高等学校 語学力(③英語使用環境の創出・拡大)	「英語サロン」の開設支援	新規	H26	地域人材や留学生等の協力による「英語&日本語交流と異文化理解」※空き教室等、適当な教室がある場合には、英語教育の教室として整備(雰囲気も工夫)し、英語の授業は適宜ここで行うとともに、その他の時間は「英語サロン」として開設	教育委員会事務局
41	高等学校 語学力(③英語使用環境の創出・拡大)	英語キャンプの通年型実施	(通年型としては)新規	H26	「みえイングリッシュピレッジ」や「三重高校生英語キャンプ」を実施 英語に苦手意識を持つ保護者の参加も募集により、家庭内の英語教育との連続性を促進	教育委員会事務局
42	高等学校 語学力(③英語使用環境の創出・拡大)	高校生の留学及び留学受入の促進	新規	H26	高校生の留学支援の充実、留学生の受入促進による国際理解教育の推進	教育委員会事務局
43	高等学校 語学力(③英語使用環境の創出・拡大)	外国の中高生とのネット交流先の開拓支援	継続	H25	ALT経験者等の人脈を利用した交流先の開拓支援 ユネスコスクール加盟促進と交流促進	教育委員会事務局
44	小中高校 語学力(③英語使用環境の創出・促進)	英語によるコミュニケーション力向上事業 「みえジュニア英語キャンプ(仮称)」	新規	H26～	高校生英語キャンプ」を通年型で実施するとともに、小中学生の参加も得る。 ・年間3回実施。うち、2回分に小中学生の参加。 [第1回]地域別イングリッシュキャンプ(MIE Regional English Camp) * 日帰り企画。3～4地域程度で開催(規模等を踏まえて判断) * 小中学生の参加希望も募る * 第2回でのディベート等への準備も実施 [第2回]オールMIEイングリッシュキャンプ(ALL MIE English Camp) * 1泊2日(～2泊3日)(夏休み期間に実施) * 小中学生も参加 * ワークショップとともに、英語によるディベート等を実施 [第3回]みえイングリッシュフォーラム(MIE English Forum) * ALTや帰国子女、留学生等も交えた英語でのパネルディスカッション	教育委員会事務局
45	高等学校 語学力(④英語人口の裾野拡大)	英語インセンティブ向上事業	新規	H26	・県内で行われている国際イベント等の活用を通じて外国人選出と交流 ・ALT等による料理教室の実施 ・海外で職業人として活躍するための英語インセンティブ向上	教育委員会事務局